

## 調査等事項報告（団体名：総務文教常任委員会）

視 察 先	富山県朝日町
視 察 日 時	令和5年5月15日（月）14時00分～16時00分まで
視 察 項 目	公共交通サービス「ノッカルあさひまち」の取り組みについて
視 察 者	矢萩浩次、阿部正任、石澤祐一、海老名幸司、中里芳之 結城 正、田中正信、柴崎亮太
内 容	<p>1 視察の目的</p> <p>当市の公共交通サービスとしては、市営バスと乗合タクシーの2種類を運行しているが、十分に利活用されているとは言い難い現状にあるため、新たな公共交通サービスのかたちとして取り組まれている事業について視察を行った。</p> <p>2 朝日町の概要</p> <p>富山県の東端に位置し、新潟県、長野県と接している。海岸から名峰朝日岳・白馬岳まで、海拔0mから3,000m級のダイナミックな地形と自然に恵まれた町。 人口：11,173人 世帯数：4,693人</p> <p>3 事業概要</p> <p>ご近所さんの自家用車でのお出かけに、ついでに「乗っかる」ことができる、助け合いの気持ちをカタチにしたサービスとなっている。各地区と中心街を行き来する住民ドライバーの車に、移動したい乗客が「乗っかる」仕組みとなっており、ドライバーは助け合いの精神のもと、自分の予定に合わせて、近所の利用者を自分の車に乗せて、目的地まで送迎する。利用者はドライバーの予定を見て、事前に予約し、ドライバーの車で目的地まで移動する。</p> <p>〈利用料金〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人での利用の場合は回数券3枚（600円）</li> <li>・二人での利用（乗り合い含む）の場合は回数券2枚（400円）</li> </ul> <p>4 取り組みの背景や経緯</p> <p>朝日町は人口減少により、平成22年には町内全域過疎指定を受け、「消滅可能性都市」ともされたが、様々な課題解決について、地元出身者などの協力を得て、まちの活性化などに取り組んできた。</p> <p>高齢者など交通移動困難者への対応については、町営バスと町内タクシー事業者によりまかっていたが、町営バスについては、安価だが地域、時間帯に偏りがあること、タクシーについては戸口送迎で利便性が高いが、中心部から離れるにつれ高額になることなど交通手段別に課題があった。このような課題解決には、住民同士の“共助の心が大切”と考え、全国で第一号事例となる「事業者協力型自家用有償旅客運送」を立ち上げた。この実現にあたっては、同</p>

	<p>町と縁のあった株式会社博報堂より運用に係るシステムやアプリ開発について、地元交通事業者からは運行管理者として協力を得ている。</p> <p>事業を立ち上げた後に、令和2年8月から令和3年9月まで無償による実証実験期間を経て、令和3年10月より有償による本格運行に移行した。本格移行後は80代女性を中心に会員登録者が増えており、利用者についても順調に増えている。利用者としては、身近な人から気兼ねなく安価で送迎をしてもらえるため、町営バスやタクシーも組み合わせて、外出の機会が増えたと大変好評であるとのことだった。また、ドライバーとなる住民の登録についても、報酬のチケット制導入による簡易さと“お互いさま”の気持ちから順調に確保できている。</p> <p>5 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・利用者の増加に伴うドライバーの確保</li><li>・LINEによる管理システム予約についての周知</li></ul>
--	--

視 察 先	石川県かほく市
視 察 日 時	令和5年5月16日（火）13時30分～15時30分まで
視 察 項 目	かほく市立宇ノ気中学校体育館の管理運営について
内 容	<p>1 視察の目的  公共施設の有効活用や学校と地域の交流促進、また、今後予定されている部活動の地域移行に関する課題解決の一助になると思われる取り組みについて視察を行った。</p> <p>2 かほく市の概要  2004年3月に旧河北郡の高松町・七塚町・宇ノ気町が合併し誕生。石川県のほぼ中央に位置し、県都金沢市の約20～25km圏内にあり、現在も人口が増えている。西に風光明媚な日本海を望み、北は宝達志水町、東は津幡町、南は内灘町に接している。  人口：34,889人 世帯数：12,528人（令和2年国勢調査 時点）</p> <p>3 事業概要  中学校の体育館を社会体育施設として整備し、管理運営を総合型地域スポーツクラブのNPO法人「クラブパレット」が指定管理者として管理運営を行っている。また、学校の授業や部活動にも総合型地域スポーツクラブが協力を行っている。</p> <p>4 取り組みの背景や経緯  施設整備以前は、バスケットボールコート2面分を有するような広い体育館がなく、住民からもそのような施設の要望があったこと、また、当時立ち上がって間もない総合型地域スポーツクラブの活動拠点がなかったことから、中学校の老朽化による建替えの際に、体育施設との複合化を計画することになった。あわせて、合併を控えていたこともあり、工事費の財源を中学校と体育館で別の枠組みとすることで、有効な財源活用を行った。  現在は、市内9箇所の体育施設についても指定管理者制度を導入し、管理運営を総合型地域スポーツクラブのNPO法人「クラブパレット」に委託している。施設管理のほかに、中学校支援として授業への人材派遣、部活動の指導者派遣など部活動の地域移行への取り組みについても効果的な施設となっている。また、一般向けにも多様な種目の教室を開催しており、市民の健康づくりにも寄与している。このように授業や部活動に外部人材や地域住民が参加することで学校と地域の交流促進が図られ、地域に開かれた学校づくりの一助となっている。</p> <p>5 今後の課題  中学校の授業や学校行事を優先するため、日中の地域住民による施設利用が限定的になってしまうことが課題である。</p>

視 察 先	石川県能美市
視 察 日 時	令和5年5月17日（火）13時00分～14時30分まで
視 察 項 目	D X推進における取り組みについて ～スマートインクルーシブシティ構想について～
内 容	<p>1 視察の目的</p> <p>2020年12月に総務省より自治体におけるD Xの方針を示した「自治体D X推進計画」が策定されてから、自治体においてもデジタル化への遅れに迅速に対応することが求められている。本市においても、今後D X推進計画の策定が予定されており、その取り組みの先進事例として視察を行った。</p> <p>2 能美市の概要</p> <p>石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、県都金沢市へは北東約20 kmの距離にあり、南には日本海の拠点「小松空港」がある小松市が隣接している。西部には日本海、中央部には手取川と梯川に挟まれた扇状地、東側には能美丘陵と海・山・川・平地の自然に恵まれた、非常に豊かな地勢である。 人口：49,710人 世帯数：19,878人</p> <p>3 事業概要</p> <p>市民力（他社とのつながり・貢献）とデジタル技術の融合により、移動が少なく、誰もが孤立せず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる「スマートインクルーシブシティ」の実現を目指す。</p> <p>4 取り組みの背景や経緯</p> <p>能美市は、海から山まで多様な地理で、交通インフラや買い物等の生活基盤が整いにくい状況にあり、子育て世代をはじめ、高齢者、要介護者などは移動が困難で孤立・孤独のリスクがあることが課題であった。この課題を解決するために、医療・介護・福祉の共通プラットフォームや地域の見守りに活用する福祉見守りあんしんマップのサービスを構築し、医療・介護・福祉での共有と生活支援の仕組みを構築している。これにより、孤立することなく、車がなくても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできるまちを実現する。</p> <p>5 今後の展望</p> <p>医療・介護の多職種多機関の関連について、電子カルテの共通化による医療の共通基盤の構築や全体最適化を進める。また、総合生活支援サービスについて、オンライン診療との連携や、薬剤配送、生活品の配送と受け取りの仕組みの実装を進める。さらには、決済機能（地域通貨や地域クーポン）とヘルスケアや子育て支援の拡充、スマート家電での高齢者見守りと防災情勢や避難状況の連携等を進める。</p>

